

Title	編集後記
Sub Title	
Author	中山, 翠(Nakayama, Midori)
Publisher	慶應義塾大学理工学部
Publication year	2023
Jtitle	新版 窮理図解 No.37 (2023. 8)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	慶應理工の人工タンパク質：タンパク質の自己組織化を利用したものづくり研究 生命情報学科 川上了史 (専任講師)
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000037-0010

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

気楽にやりませんか？

川上了史

ちょうどこの冊子の取材をしていただく前に、植物生態学を専門にしている友人と再会し、その研究内容を講演で聞く機会を得ました。主題は、個人の所有地の境界に植えられてきた境木とその保全についてです。資料には、177地点2001本の境木について調査した、とあり、とんでもない数値に驚きを隠せませんでした。一方で、考えてみれば、いきなりこの数字になったわけではなく、始まりの1本があり、そこからやめずに研究を継続したことが成果につながったはずなのです。これを単純にまとめるならば、興味を持ったことに着手し、そして継続しただけのことかもしれません。しかし、これが難しいことはよくわかります。たいていは3日でやめるか、そもそも新しいことを始める人は

少ないものです。

振り返って思い出すのは、大学院生だったときに「理学は好きなことを追求する学問だ!」と教えてくれたのが、まさに彼でした。そして、それが形になった研究だと思いました。当時、私は役に立たない研究など意味がないと疑いもせずに考えていたので、理学の考え方に衝撃を受けたことをよく覚えています。そしてどういうわけか、結局、私も理学の道へ。

紆余曲折を経て慶應義塾に着任してからは、やりたくないことを始めてしまうと、結局、途中でやめてしまうだろうと思ひ、興味だけはあった新しい分子の構築の研究を始めることにしました。諦め悪く粘り続けたことで幸運にもその研究はTIP60の構築につながりました。友人のとてつもない努力と同列に並べるのはおこがましいのですが、私の場合も結局は始めること、続けることが鍵であったわけです。

世の中を見渡せば、「成功する」という定義にはさまざまな捉え方があり、またそこに向かうアプローチも千差万別です。だから、愚直な積み重ねが唯一の正解とは言えません。しかし、どんなことでも、それが積み重なっていくと、友人の研究のように始まりの1本が2000本を超えることもありますし、偶然に何かよいものを引き当てる確率も高まります。自分にはそんな才能はないと思っていても、やってみるとわかることが増えたり、新しいアイデアがでてしまったりして、楽しくなってきます。それが継続の動機になるんですね。私がYouTubeを始めたのもこのような理由からです。どんな仕事にもうまくいく保証などありません。もし、自分でも何かできそうだな、手がけてみたいと思えることに当たったら、まずは気楽に、利益はともかく、小さく始め、ダラダラ続けるくらいがいいので、始めてみてはいかがでしょうか。

理 工 学 Information

理工学部の研究成果を動画で (慶應理工.tv)



理工学部公式ウェブサイト (<https://www.st.keio.ac.jp/>) では、理工学部の各研究室や、その活動を紹介する「慶應理工.tv」 (<https://www.st.keio.ac.jp/rikou-tv/>) を設置しています。

各研究室の最新の研究の取り組みを研究者たちが紹介しており、研究についてはもちろん、研究室の雰囲気や実験機器など様々な面から矢上キャンパスの雰囲気を感じていただけます。ぜひ、皆さんの端末上で、慶應理工の研究に触れてみてください。

編集後記

この号では、人工タンパク質ナノ粒子を研究している川上了史専任講師を紹介しました。幅広い読者の方にぜひ手に取っていただきたい特集になりましたが、いかがでしたでしょうか。

川上専任講師のバイタリティにあふれた前向きな姿勢からは、本学の建学の精神「自我作古」(前人未踏の新しい分野に挑戦し、たとえ困難や試練が待ち受けていても、それに耐えて開拓に当たる)を体現している力強さを感じました。新たな課題にチャレンジする精神が先生の周囲や学生さんたちに広がっていくのが楽しみです。

(中山 翠)

新版 窮理図解



No.37 2023 August

編集 新版窮理図解編集委員会
 写真 邑口京一郎
 デザイン 八十島博明、石川幸彦 (GRID)
 編集協力 サイテック・コミュニケーションズ
 発行者 村上俊之
 発行 慶應義塾大学理工学部
 〒 223-8522 横浜市港北区日吉 3-14-1
 問い合わせ先 (新版窮理図解全般)
kyurizukai@info.keio.ac.jp
 問い合わせ先 (産学連携)
kll-liaison@adst.keio.ac.jp

web 版
<https://www.st.keio.ac.jp/education/kyurizukai/>